ホモ・サピエンスと旧人

——旧石器考古学からみた交替劇

西秋良宏 編

六一書房

はじめに

西秋　良宏

今回のシンポジウムは，文部科学省科学研究費・新学術領域研究の研究課題，「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究」に基づく企画です[1)]．

このプロジェクトは高知工科大学の赤澤威教授を領域代表者として進めている研究で，総括班のもと6つの班で構成されています．考古学，文化人類学，理論生物学，古環境科学，化石工学，脳科学という6つのグループです．今日のシンポジウムは，この中の考古学，つまりA01「考古資料に基づく旧人・新人の学習行動の実証的研究」班が主催しておこなうものです．

私どもが調べようとしているのは，旧人と新人の交替劇についてです．考古学班に期待されていることは，少なくとも二つあります．一つは，交替劇の経緯．つまり，旧人と新人がどのように交替していったかというプロセスを具体的に跡づけることです．そもそも本当に交替劇があったのか，旧人が新人に吸収されただけではないかという人もいるかもしれません．そのようなことも含めて，プロセスそのものを考古学的な証拠を使って実証するという仕事が期待されています．他の分野の研究者が参照すべき事実関係を確証する，という仕事です．そして，もう一つは，その原因の考察．このプロジェクトでは，交替劇が起こった原因として，学習行動，学習能力が違ったのではないかという仮説をたてています．それを考古学的証拠でもって検証してみたいと思っているわけです．

今日，明日のシンポジウムで議論したいことは，今，述べたうちの一つ目の課題です．旧人と新人が交替していった経緯について，考古学的な証拠でもって研究の現状をサーベイすることです．もちろん会場から，なぜ交替したのかという二つ目の課題についてご質問をいただくことも大いに結構ですけれども，発表については一つ目の課題が中心になるはずです．

旧人と新人の交替劇については，旧人の代表であるネアンデルタールが生きていたヨーロッパで研究が非常に進んでいます．特に「ステージ3プロジェクト」というものが，10年ぐらい前ですか，活発に行われて，ヨーロッパについては旧人・新人遺跡の大規模な年代データベースが作られました[2)]．それでもって，ヨーロッパでの交替劇について，少なくとも年代や環境変化との関わりについてはかなり立証されたという実績があります．しかし，ヨーロッパ以外，ユーラシア東部をふくめて地球規模で関係する遺跡をリストアップし，交替の経緯を説明した研究は今までありません．また，その経緯を学習能力の違いで説明しようとする研究もありません．私たちは，それに取り組んでいます．

そのために制作しているのが地球規模の遺跡データベースです[3)]．チームを作って，世界中の遺跡情報を集めています．ターゲットとしているのは，20万年から2万年くらい前の遺跡です．旧人がユーラシア各地にいて，一方で解剖学的な新人がアフリカに現れたのが20万年前くらい

とされています．両者の交替が完全に完了するのが，東南アジアのホビットなど例外を別にすれば，3〜2万年くらい前だと思われます．この間の時期に属する遺跡，年代，文化などに関するデータを集成し，まず交替の実態を実証しようと目論んでいます．

旧人の代表であるネアンデルタール人が新人とどう置き換わったかをターゲットにした研究ですから，ネアンデルタールが分布していた西半球を研究対象にしようというのが当初計画でした．しかし，2010年の夏に開始して以来，2年を経過して，かなり成果が上がってきましたので，一歩進めて，今では東半球も含めたデータベース構築に向け作業を進めつつあります．ネアンデルタール人がいなかった地域，つまり東アジアで起こった交替劇の経緯や原因を調べれば，ネアンデルタールがいた地域で起こった交替劇の理解に役に立つと考えています．

さて，今日と明日，旧世界各地について，交替劇の経緯を示す考古学的な証拠をサーベイします．地域別に担当者を決めて，研究の現状についてお話いただくことになっています．

アフリカ，西アジアについて報告いただくのが門脇誠二さん，ヨーロッパが佐野勝宏さん，中央アジアが長沼正樹さん，シベリアは加藤博文さん，朝鮮半島が長井謙治さんで，日本が仲田大人さん．ここまでがこのプロジェクトのメンバーで，過去2年間一緒に討議を重ねてきた人たちです．南アジアから中国，東南アジアにかけては，新たに含めた研究地域ですので，ゲストスピーカーをお招きしています．すでに独自に研究の蓄積をお持ちの野口淳さん，加藤真二さん，石村智さんです．

新人がアフリカからいつ出たか，から始まって，その後，旧大陸各地で交替劇がどのように進んだのか．年代やルートについて，考古学の遺跡と石器に関わる証拠を使って，今日と明日，現状を整理し，課題について議論したいと思います．考古学的証拠を地域別に点検していくわけですが，その前に，人類学的な証拠　—それは考古学的な証拠ときっちり区別できるほどのものではないと思いますけれども—　人類学の分野で交替劇がどのように考えられているのか，研究の現状について国立科学博物館の海部陽介さんに基調講演をお願いしております．

活発な議論をいただき，充実した二日間になることを期待しております．

1) http://www.koutaigeki.org/

2) van Andel T. H. and Davies W. (2003) Neanderthals and Modern Humans in the European Landscape during the Last Glaciation. McDonald Institute of Archaeological Research, University of Cambridge, Cambridge.

3) Kondo Y., Kadowaki S., Kato H., Naganuma M., Ono A., Sano K. and Nishiaki Y. (2012) Network computing for archaeology: a case study from the 'Replacement of Neanderthals by Modern Humans' database project. In: Zhou M., Romanowska I., Wu Z., Xu P., and Vewrhagen P. (eds.), CAA2011 - Revive the Past: Proceedings of the 39th Conference in Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology, Beijing, China. 12-16 April 2011. Amsterdam University Press, Amsterdam, pp. 227-236.

目　次

はじめに……西秋良宏　i
例言

Ⅰ　化石人類学からみた交替劇

ホモ・サピエンスのユーラシア拡散 —最近の研究動向—……海部陽介　3

Ⅱ　ネアンデルタール世界

アフリカと西アジアの旧石器文化編年からみた現代人的行動の出現パターン…門脇誠二　21
ヨーロッパにおける旧石器文化編年と旧人・新人交替劇……佐野勝宏　38
シベリアの旧石器編年と交替劇……加藤博文　57
中央アジアにおける旧石器編年と旧人・新人交替劇……長沼正樹　73

Ⅲ　非ネアンデルタール世界

南アジアの中期／後期旧石器時代 —「南回りルート」と地理的多様性—……野口　淳　95
東南アジア・オセアニアにおける新人の拡散 —人類の海洋への適応の第一歩—……石村　智　114
考古学からみた中国における旧人・新人交替劇……加藤真二　129
朝鮮半島における旧人・新人「交替劇」……長井謙治　143
日本列島で交替劇は起きたか？……仲田大人　161

Ⅳ　総合討論

旧石器考古学からみた旧人・新人交替劇……183

交替劇の時期と過程をめぐる諸問題 —あとがきにかえて—……西秋良宏　197

編者略歴、執筆者および討論における発言者